

「外護について」

日蓮大聖人は、信徒の信心のあり方について、『松野殿御返事』に
在家の御身は、但余念なく南無妙法蓮華経と御唱へありて、僧をも供養し給ふが肝心に
て候なり。それも経文の如くならば随力演説も有るべきか。 (御書 1051 頁)

と御教示であります。余念なくお題目を唱え、仏法僧の三宝への御供養に努め、折伏弘通に精進することが肝要であると仰せであります。

私達が日常、仏祖三宝尊にお給仕し、お護りすることは、成仏を遂げる信行の土台であります。そして、この三宝をお護りすることを「外護」と言うのであります。

『日蓮正宗宗規』には、

「檀信徒とは、本宗の教義を信奉し、寺院又は教会に所属して、葬祭追福を依託し、総本山及び所属の寺院又は教会の永続護持に努める者をいう」 (宗制宗規 80 頁)

と明記されております。日蓮正宗の信徒は、大御本尊と御法主上人猥下が在す総本山大石寺、また、所属寺院や布教所等をお護りする、外護していくという尊い使命が存するのであります。

日蓮大聖人は『曾谷入道殿許御書』に、

涅槃経に云はく「内には弟子有って甚深の義を解り、外には清浄の檀越有って仏法久住せん」
(御書 790 頁)

と仰せであります。

日蓮正宗では、唯授一人の血脈を御相承遊ばされる御法主上人猥下をはじめ、本宗僧侶が、日蓮大聖人の正法正義を誤りなく伝えていきます。つまり、「内護」とは仏法を教団の内側から護るとの意味で、御法主上人猥下をはじめ、本宗僧侶が正法を正しく伝え導いていく、令法久住の任を担っていることをいいます。

そして、信徒の清浄な信行によって、外側から正法の発展興隆を護っていくことが「外護」であります。信徒の「外護」について具体的には、毎月の広布唱題会や御報恩御講、座談会などの行事や会合等に参詣し、正しい信行を養い、所属寺院、布教所、会館等を様々な角度からお護りすることとあります。

また、御本尊に真心からの御供養をお供えして、寺院の発展興隆に尽くすことも外護の一つであります。さらに、各行事や会合などの準備・手伝い、境内の整備・清掃など、身をもって御奉公することも身の供養としての外護なのであります。

この「内護」と「外護」があって、はじめて正法が正しく厳格に、未来に亘って護り伝えられていくのであります。

そして、如何なることがあっても、外護の精神を忘れることなく、所属寺院・布教所、また会館

などの拠点を護っていくことが大切であります。その精神と実践が、大きな功德となって、皆様一人ひとりの幸福へとつながり、また、人生の苦難を乗り越えていける強い力となって身に具わるのであります。

日蓮大聖人は『崇峻天皇御書』に、

仏法の中に、内薫外護と申す大いなる大事ありて宗論にて候。法華経には「我深く汝等を敬ふ」と。涅槃経には「一切衆生悉く仏性あり」と。（中略）かくれたる事のあらはれたる徳となり候なり。 (御書 1170頁)

と御教示であります。

「内薫」とは、内から薫るということであり、正しい仏道修行によって、衆生の命の内々に存在する仏性が薫発されて功德を得ることでもあります。そして、その功德により、過去世からの種々の罪障を消滅し、その結果、自らを外護することになるのであります。

また、この「内薫」の徳は、自分一人に留まることなく、周囲には善き縁となって様々な影響を与えるのであります。つまり、私たちの命にそなわる仏性が、正しい教えを得ることによって発動して、私たちは仏道修行を行じ功德を積むのであり、その功德により、仏から護られ、法によって護られ、諸天善神から護られるなど、外から守護されるのであります。これが内薫外護の「外護」なのであります。

私たちは、とかく外に表れ出たものに執着し、内に隠れたものを見失う傾向がありますが、内における真の徳を積み重ねることこそ大事なのであります。

私たちが御本尊へお給仕し、朝夕の勤行・唱題、折伏や育成、御供養など、自行化他に亘る信行に努めていくことが大切であり、これらの尊い振る舞いにより、御本尊の照覧をいただき、ご加護賜ることになるのであります。

御法主日如上人猊下は、

「桜梅桃李」という言葉があります。桜や梅などは皆、それぞれに特徴があります。我々も同じではないでしょうか。日蓮正宗を、皆で護っていく。それぞれが分に応じて、桜は桜、梅は梅として、しっかりと護っていく。また、寺院を護ることも同じであります。寺院の御本尊様をどうやってお護りしていくかを考えねばなりません。つまり、皆が同じでなくてもよいのです。かつて、釈尊やその教団を護ってきた十大弟子がそうであったように、それぞれが自分の得意分野において力を発揮し、その上で心を一つに合わせれば、折伏もできるし、日蓮正宗が興隆していくのです。そして、御本尊をしっかりとお護りすることができるのです (信行要文 3-60頁)

と仰せであります。

これからも、御法主日如上人猊下の御指南を根本に、指導教師の御指導のもと、皆様がそれぞれの長所を活かして外護に努め、日蓮正宗の発展興隆のために勇往邁進していきましょう。